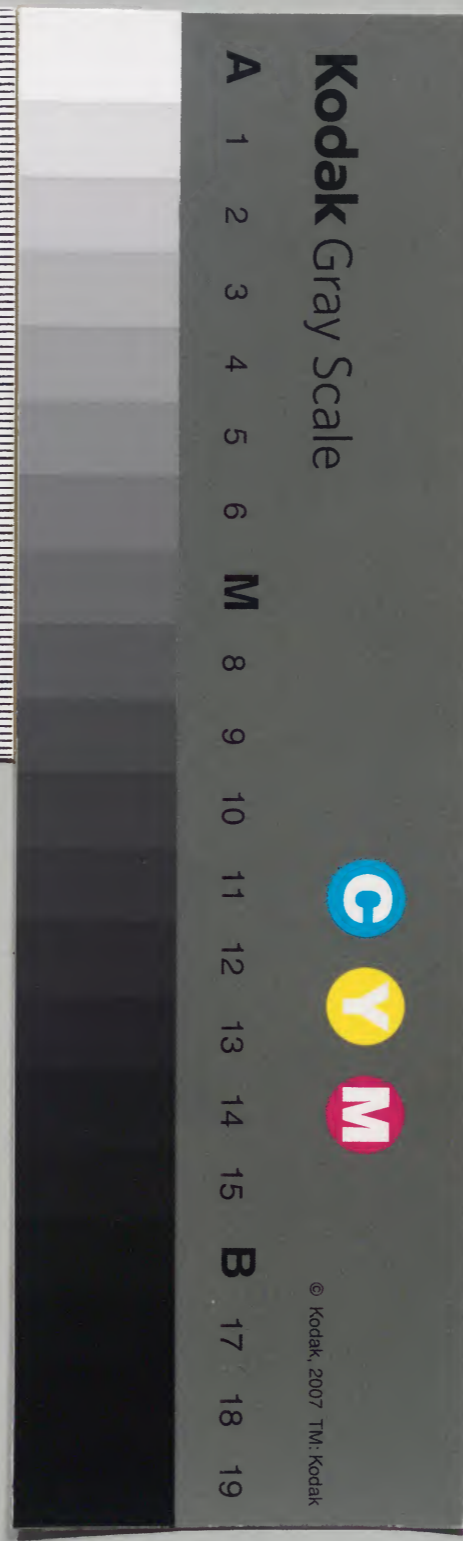


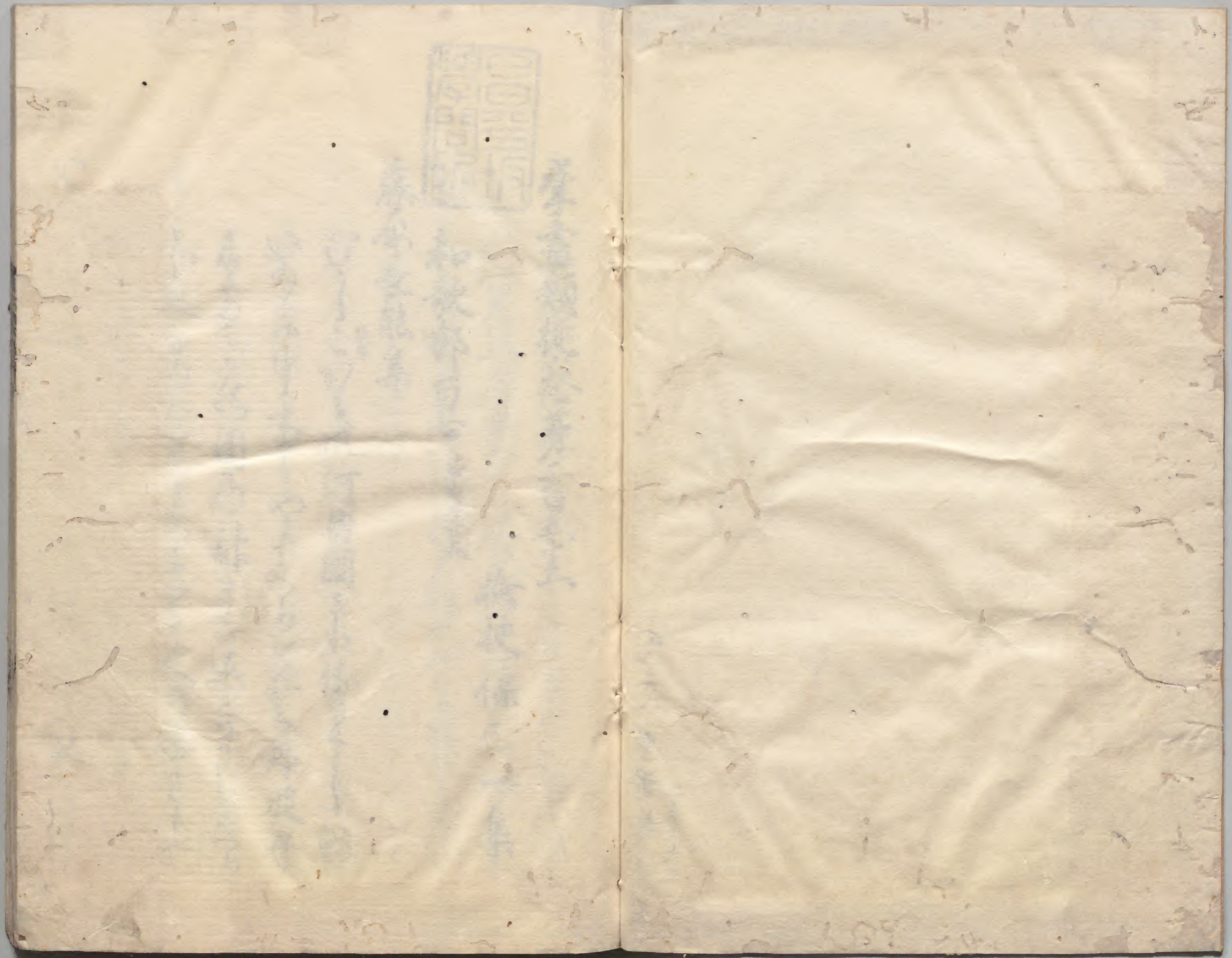
和書類從

二百五十二

庫	文	閣	內
三	三		和
二	八		書
一	六		
六	八		
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 38368
冊數	91 (48)
函號	261 8

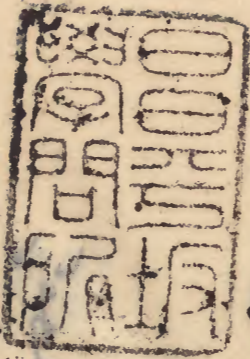




Rectangular stamp with illegible characters, possibly a library or archival mark.

羣書類從卷第百五十二

檢校保己一集



和歌部百七 家集集

藤原長能集

いづこ敬守から河内國とわたりし時

いの字申事やまゝりし母と丹波守

もとのちの國乃祚うと返まりしつら

ふにものたてまつる人の係りし

かたしきとちり

らふまゝにわたりしはこれのまゝにわたりし

和歌部百七

先づ昔もあつたに
此の作し東宮乃殿と
名近将監よなち
九十月十五日志ん
後

東宮乃殿と名近
将監よなち
九十月十五日志ん
後



二月一日草とび
丹波もくわつ
京もくわつ

秋小鷹がかり子梅のこぼれをさし
 あふたのこころを女に託し
 山は田原の山をさし
 なるはこころを女に託し

秋小鷹がかり子梅のこぼれをさし
 あふたのこころを女に託し
 山は田原の山をさし
 なるはこころを女に託し
 なるはこころを女に託し
 なるはこころを女に託し
 なるはこころを女に託し
 なるはこころを女に託し

秋小鷹がかり子梅のこぼれをさし
 あふたのこころを女に託し
 山は田原の山をさし
 なるはこころを女に託し
 なるはこころを女に託し
 なるはこころを女に託し
 なるはこころを女に託し
 なるはこころを女に託し
 なるはこころを女に託し

秋小鷹がかり子梅のこぼれをさし
 あふたのこころを女に託し
 山は田原の山をさし
 なるはこころを女に託し

月と花とをよみてはたしむる可なりやおもえと思ひて

又あつた花と花所も待望島のふみ

おらへ花のしらべはあはれし安らむる心ぞ

まゝおのりてはらひの法神の坊よとては

あつた

おのりてはらひの法神の坊よとては

花山院乃甚遠なりて影を行人の心

りおのりてはらひの法神の坊よとては

はらひの法神の坊よとては

付

入道中納言義隆下らへしおもひては一条殿の

あつた

あつた

あつた

うたへしあつた

あつた

あつた

あつた

あつた

又あつた

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

おのれ

おのれはたゞの世に生かされぬ
まはるる世に生かされぬ

八月 廿二日 申時 母在 彌留 抄

母在 彌留 抄 母在 彌留 抄

母在 彌留 抄 母在 彌留 抄

母在 彌留 抄

母在 彌留 抄 母在 彌留 抄

母在 彌留 抄

母在 彌留 抄 母在 彌留 抄

母在 彌留 抄

母在 彌留 抄 母在 彌留 抄

母在 彌留 抄 母在 彌留 抄

雨 母在 彌留 抄

母在 彌留 抄 母在 彌留 抄

母在 彌留 抄 母在 彌留 抄

母在 彌留 抄 母在 彌留 抄

あつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

あつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

あつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

あつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

あつてしつとく

あつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

あつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

あつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

あつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

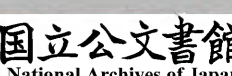
あつてしつとく

あつてしつとくあつてしつとくあつてしつとく

^{マイ}おあはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}に毎く^{マイ}こころいふかたもあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}もぢうな^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは

^{マイ}秋もぞくくもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}山にのりりる法師よなまもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは
^{マイ}あはれなるかなもつれあはれにのれしをすまじむらあは

二五二



あはれなる人へはまゝに

心もあはれも有らざるにほのめたるはよき春の言の

おもひ夜乃あはれふあはれなるの

なげわびの心もあはれなるは人の心幾つかり

月院もあはれ子の給は梅乃笑を所

を地ふらむの心もあはれなるは人の心幾つかり

左大辨乃あはれは小方の心もあはれ

ちもあはれははれなるは人の心幾つかり

あはれなる

あはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなる

上総もあはれなるはあはれなるはあはれなる

あはれなるはあはれなるはあはれなる

東路乃あはれなるはあはれなるはあはれなる

あはれなるはあはれなるはあはれなる

夏来月

あはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなる

郭公

あはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなる

池色松

あはれなるはあはれなるはあはれなるはあはれなる

い法道乃らうりめあらじ花山院り
 八月二日拜命せらるるもをりんく
 あつらひしきまの山一は年々も
 どのく奉せとあつらきり持し
 たあもまうりし七夕
 袖ひらてあつらひも水乃あつら
 露
 けいあつらし紫末の清らりし
 花山院二月廿一日はれ清らり
 うあつらしはもあつらりし尋
 花

つとむ

谷をよもあつらひのつとむ
 心寺のあつらひ
 うあつらひあつらひ
 目後乃あつらひ
 人く日年つとむ
 首裁さあつらひ
 所
 佐保娘乃あつらひ
 もあつらひ

あゝ今もあつたかと思ふ事なき事なき
石山もあつた

あゝあつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

あつたかと思ふ事なき事なき
あつたかと思ふ事なき事なき

かのうらやうのあま〜たま〜人
 ちかきこころのあま〜たま〜はた〜
 成るるをいふあま〜たま〜のうらやう
 ち早敷らるるあま〜たま〜のあま〜
 あま〜たま〜の神あま〜たま〜のあま〜
 うらやうのあま〜たま〜のあま〜
 ちかきこころのあま〜たま〜のあま〜
 ちかきこころのあま〜たま〜のあま〜
 乃九条のあま〜たま〜のあま〜
 お次波の袖うらやうのあま〜たま〜

うらやうのあま〜たま〜のあま〜
 女乃ちかきこころのあま〜たま〜
 ちかきこころのあま〜たま〜
 獨ね乃ちかきこころのあま〜たま〜
 白川の流もあま〜たま〜のあま〜
 うらやうのあま〜たま〜のあま〜
 山駕乃ちかきこころのあま〜たま〜
 紅葉あま〜たま〜のあま〜
 ちかきこころのあま〜たま〜のあま〜

やた乃里りあ

なつたちのけいやくれつなもひすからぬものか

こうまうゆりよとれく人くちりき

ゆりしに傳敷るものたにみえりき

そまうり

きいも志や若すまぬたなくふりよ深美

く

おほつら後まはきくものき終る後のたき

花山院乃御侍名は菊れつらりし

笑か吹ぬもなれきれもこのまをとれき

そやう雲哉乃祭らゆらえあや

車もれまもゆらりしとていよ

羽衣まももく

おのれ乃なうたあもあ人乃すも

く

あまも志うりなまあしあれも

うりしとれもあまも

なまも志うりなまあしあれも

あまも志うりなまあしあれも

明言乃あまも志うりなまあしあれも

公に書くは、

春雨

昔ながらの思おもはくは、

あはれな女も、

五月あたらしく、

春の海

さきほろびて、

心

きこえぬ

あはれ

新編

五

若波の若女は、

数多し、

あはれな

あはれな

心

日影は、

あはれな

あはれ

あはれな

あはれな

風はくもあつたかきつるまはるあまのついでに
海より歌くはるあつたかきつるまはるあまのついでに
あのみくはるあつたかきつるまはるあまのついでに
ゆるしにいふあつたかきつるまはるあまのついでに
くはるあつたかきつるまはるあまのついでに

あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに

あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに

由息所

あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに
あつたかきつるまはるあまのついでに

女にあらしむいなる

東海乃野路の葉のい海なるもあはれなき

あそり

巧と傳の林をききしつらぬもあはれなき

いり

じつとくあはれもあはれなき

傳殿のいりりなきあはれなき

あそり

いりりあはれもあはれなき

あそり

つらぬいりりあはれもあはれなき

物にいりりあはれもあはれなき

あそり

いりりあはれもあはれなき

あそり

いりりあはれもあはれなき

あそり

あそり

あそり

我屋の折福乃梅やさる也は雪の如く若きもあつ

梅

まださうりしつと梅のつぼみはけり梅さうれ
りしつと梅さうりしつと梅さうれ梅さうれ
梅さうれ梅さうれ梅さうれ梅さうれ梅さうれ

款冬

冬は清く井水は川流はをみで今も梅さうりしつと梅

柳

花を散らししつと梅さうりしつと梅さうりしつと梅

夏

夏は心から梅さうりしつと梅さうりしつと梅
梅さうりしつと梅さうりしつと梅さうりしつと梅

冬

冬は心から梅さうりしつと梅さうりしつと梅
梅さうりしつと梅さうりしつと梅さうりしつと梅

友の大臣乃大井も梅さうりしつと梅さうりしつと梅

梅さうりしつと梅さうりしつと梅さうりしつと梅

梅さうりしつと梅さうりしつと梅さうりしつと梅

梅の奇命は惜夏恋月

梅さうりしつと梅さうりしつと梅さうりしつと梅

やゆりし

つ後をうをいしあはら思ふ人さつを以て人さすはあ
 人のうを戒めありしはあはら思ふ人さすはあ
 宮のあはら思ふ人さすはあ
 院の殿よもあはら思ふ人さすはあ
 卯花満墙根こりしあはら思ふ人さすはあ
 うはら思ふ人さすはあ
 十月ふあはら思ふ人さすはあ
 あはら思ふ人さすはあ

藤原長能讚波權女惟岳孫也伊勢守倫守

二男 惟岳者高経孫長男中納言長良卿孫也

天元五年十月十八日任右近将監永觀

元長二月五日停任八月十二日任左近将監

二年八月廿七日補藏人寛和二年

月日並近江少掾永延二九年八月廿九日

任圖書頭正曆二四月廿六日任上總女

寛弘二正月廿七日叙後六位上治國賞同六

年正月廿八日任伊勢守

右藤原長能集以古字一本校合